

## 2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分(基専)	共通科目
授業科目名	医学概論	担 当 教 官 名	枝 智津子
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	通 年
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	ライフステージ、ICF、リハビリテーション、公衆衛生		
授業の概要 及び到達目標	<p>&lt;授業概要&gt;医学概論は、基本的な人間の解剖学的学習をはじめ、成長発達から老化などを理解すること、また主な疾病や障害の概要を理解することによって多職種と連携して役割を果たすために重要な学問である。 到達目標を下記とし、講義計画・内容に沿って講義を進める。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <p>①日本の人口動態・現状を知り、健康概念の歴史や変遷が説明できる。 ②人体の解剖学的名称が言え、疾病と照らし合わせて考えることができる。 ③疾患や障害の病態が説明できる。 ④リハビリテーションの概要と必要性が説明できる。 ⑤公衆衛生の観点から、人々の健康に影響を及ぼす要因や健康課題を解決するための対策を理解する。</p>		
講義計画・内容	<p>1「ライフステージにおける心身の変化と健康課題」 2「健康及び疾病の捉え方～健康の概念・疾病の概念・国際生活機能分類(ICF)」 3「身体構造と心身機能①人体部位の名称」 4「身体構造と心身機能②基幹系と臓器の役割①」 5「身体構造と心身機能②基幹系と臓器の役割②」 6「疾病と障害の成り立ち及び回復過程①疾病の発生要因」 7「疾病と障害の成り立ち及び回復過程②病変の成立機序」 8「疾病と障害の成り立ち及び回復過程③障害の概要①」 9「疾病と障害の成り立ち及び回復過程④障害の概要②」 10「疾病と障害の成り立ち及び回復過程⑤「リハビリテーションの概要と範囲」 11「疾病と障害の成り立ち及び回復過程⑥疾病と障害・その予防等①」 12「疾病と障害の成り立ち及び回復過程⑦「疾病と障害・その予防等②」 13「公衆衛生の概要①公衆衛生の概要」 14「公衆衛生の概要②健康増進と保健医療対策」 15「まとめ」</p>		
準備学習	テキストに事前に目を通し、授業に備える		
教科書・教材等	最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座①医学概論(中央法規出版) その他、授業中に配布する資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義形式		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	本科目については、医学的内容が含まれるため難しいと感じると思うが、対象を全人的に理解するうえで必要な知識である。臨床で医師やコメディカル、スタッフとチーム医療を行っていくことの重要性を意識して学んでほしい。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分	共通科目
授業科目名	心理学と心理的支援	担 当 教 官 名	船曳美千子/花島正晃 濱田恵/山西紀律代
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	心理的機能、心理検査、心理療法、人と環境、発達		
授業の概要 及び到達目標・ 講師紹介	<p>&lt;授業概要&gt; ソーシャルワーカーは、様々な生きづらさを抱えた方を支援する専門職であるため、その対象である人間の心身について理解することが求められる。そこで本授業では、人間の心理的機能、人々の心理的状态を知る「心理検査」、人間の心理的活動等を適応的な方向に働きかける「心理療法」の習得を目指す。またそれらの知識をもとに、個人と集団との関係等についても理解することを目的とする。</p> <p>【到達目標】 1. 心理学の基本的な事項・概念を理解できるようになる。 2. 心理的な支援について、理解できるようになる。 3. ソーシャルワークにおける支援を、心理学的視点から捉え、理解できるようになる。</p> <p>【講師紹介】 ・船曳美千子 公認心理師、社会福祉士、精神保健福祉士を取得。修士(社会福祉学)。児童に関する相談機関・施設で、ソーシャルワーク業務に従事していた。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業概要、心理学の視点(心理学の歴史と対象、心を探求する方法の発展)</li> <li>2. 人の心の基本的な仕組みと機能①(心の生物学的基盤)</li> <li>3. 人の心の基本的な仕組みと機能②(感情・動機づけ・欲求)</li> <li>4. 人の心の基本的な仕組みと機能③(感覚・知覚)</li> <li>5. 人の心の基本的な仕組みと機能④(学習・行動)</li> <li>6. 人の心の基本的な仕組みと機能⑤(認知)</li> <li>7. 人の心の基本的な仕組みと機能⑥(知能・パーソナリティ、社会のなかでの心理)</li> <li>8. 人の心の発達過程(生涯発達、心の発達の基盤)</li> <li>9. 日常生活と心の健康(心の不適應、健康生成論)</li> <li>10. 心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本①(心理アセスメント、心理的支援の基本的技法)</li> <li>11. 心理学の理論を基礎としたアセスメントと支援の基本②(心理療法におけるアセスメントと介入技法の概要、心理の専門職)</li> <li>12. ソーシャルワークと心理学</li> <li>13. 総まとめ①</li> <li>14. 総まとめ②</li> <li>15. 総まとめ③</li> </ol>		
準備学習	教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと		
教科書・教材等	『最新・社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座2 心理学と心理的支援』・その他、授業中に配布する資料		
授業の形式 教育機器の活用	指定教科書とTeamsにアップした資料による講義形式		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	心理学と福祉学は、密接な関係があります。また心理学で学んだことは、今後のソーシャルワーク実践で非常に役立ちますので、この授業をもとに基本的な概念や心理検査・心理療法の概要を習得をして下さい。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分(基専)	共通科目
授業科目名	社会福祉の原理と政策	担当 教 官 名	花島正晃/吉岡祐紀
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	30回
授業のキーワード	社会福祉の歴史、現代における社会福祉の意義 社会問題と福祉政策 福祉政策の背景		
授業の概要 及び到達目標	<p>&lt;授業概要&gt;本授業では、主に社会福祉政策へと焦点を当てた授業を展開する。政策への解説に加え、政策の背景や歴史的経緯なども踏まえて社会福祉政策を連続性のある対象として捉えられるようになることを到達目標としている。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における福祉政策の意義について理解できる。</li> <li>2. 社会問題や歴史的経緯など、政策の背景を踏まえた立体的な理解ができる。</li> <li>3. 政策から実践、福祉分野から他分野など横断的な視点を習得できる。</li> </ol> <p>&lt;教員経歴(吉岡)&gt;</p> <p>2005年 社会福祉士 取得                  2017年 主任介護支援専門員 取得                  2017年 社会福祉学修士号 取得                  2007年 京都市勤修地域包括支援センターでの社会福祉士業務を経て、                  2014年より、かんしゅうケアプランセンター:主任ケアマネジャー                  現職に至る</p> <p>&lt;教員経歴(花島)&gt;</p> <p>社会福祉士・精神保健福祉士・認定心理士・修士(健康福祉学)                  福祉実践現場においては、教育委員会における学校ソーシャルワークや                  市役所保健福祉センターにて生活保護ケースワークを経験。教育分野                  では、専門学校専任教員、大学・短期大学等にて非常勤講師を経験。</p>		
講義計画・内容	<p>【吉岡】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1「本科目の特徴と傾向」</li> <li>2「福祉とは何か」</li> <li>3「福祉政策の構成要素、過程、評価」</li> <li>4「福祉政策と包括的支援の現状と課題」</li> <li>5「福祉政策とSDGs」</li> <li>6「福祉政策と関連施策①」</li> <li>7「福祉政策と関連施策②」</li> <li>8「福祉政策と関連施策③」</li> <li>9「福祉政策と関連施策④」</li> <li>10「福祉政策と関連施策⑤」</li> <li>11「福祉政策と国際比較①」</li> <li>12「福祉政策と国際比較②」</li> <li>13「福祉政策と国際比較③」</li> <li>14「福祉政策の課題と展望」</li> <li>15「まとめ(国家試験を踏まえて)」</li> </ol>	<p>【花島】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1「日本の社会福祉の歴史①」</li> <li>2「日本の社会福祉の歴史②」</li> <li>3「欧米の社会福祉の歴史①」</li> <li>4「欧米の社会福祉の歴史②」</li> <li>5「社会福祉の思想・哲学」</li> <li>6「社会福祉の理論①」</li> <li>7「社会福祉の理論②欧米の社会福祉の理論」</li> <li>8「社会福祉の論点」</li> <li>9「社会福祉の対象とニーズ」</li> <li>10「現代における社会問題」</li> <li>11「社会問題の構造的背景」</li> <li>12「福祉サービスの供給と利用過程①福祉供給部門」</li> <li>13「福祉サービスの供給と利用過程②福祉供給課程」</li> <li>14「福祉サービスの供給と利用過程③福祉利用過程」</li> <li>15「まとめ」</li> </ol>	
準備学習	事前に該当箇所を教科書で予習することが望ましい。また、該当箇所に関する社会問題についてニュースや新聞等を確認し、自身の中で見識を深める姿勢が求められる。		
教科書・教材等	最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座④社会福祉の原理と政策(中央法規出版) その他、授業中に配布する資料		
授業の形式 教育機器の活用	指定教科書及び配布資料による講義形式を主とする。 (吉岡)理解を深めるために個人ワークやグループワークも積極的に取り入れる。		
成績評価の方法	定期試験(中間・期末) 100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	本科目は、数ある科目における根本を担う重要な役割を持っています。他の科目にもつながる横断性が本科目の面白さともいえるでしょう。歴史・政策など内容が多岐に渡り理解が難しい用語もあるかもしれませんが、ぜひ興味を持って授業に参加することを望みます。		

## 2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分	共通科目																
授業科目名	社会学と社会システム	担 当 教 官 名	船曳美千子/花島正晃 濱田恵/山西紀律代																
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	通 年																
必修・選択の別	必修	授業回数	15回																
授業のキーワード	社会の仕組み(システム)、社会と人との関係及び生活の理解、社会問題																		
授業の概要 及び到達目標	<p>&lt;授業概要&gt; 社会福祉士は、「クライアント」、「(クライアントを)取り巻く環境」、「両者の関係(相互作用)」に着目し、支援していくため、社会の仕組みを知り、社会と人との関係、社会生活、様々な社会問題を理解することは必要不可欠である。本授業では、社会学の基本的な概念や視点を習得し、現代社会における問題を社会学的観点から考えられるようにする。</p> <p>【到達目標】 1. 社会の仕組み、社会と人の関係など、社会学的視点を理解し、習得できるようになる。 2. 現代社会を理解する上で必要な基本的概念を習得できるようになる。 3. 社会問題を社会学的視点からとらえ、理解できるようになる。</p> <p>【講師紹介】 ・船曳美千子 精神保健福祉士、社会福祉士、公認心理師を取得。修士(社会学)。児童に関する相談機関・施設で、ソーシャルワーク業務に従事していた。</p>																		
講義計画・内容	<table border="0"> <tr> <td>1. 授業概要の説明、社会学の視点(社会学の意義と対象・社会学の歴史)</td> <td>8. 健康</td> </tr> <tr> <td>2. 社会システム、組織と集団</td> <td>9. 労働</td> </tr> <tr> <td>3. 人口、グローバル化、社会変動</td> <td>10. 世代</td> </tr> <tr> <td>4. 地域、環境</td> <td>11. 自己と他者、社会化</td> </tr> <tr> <td>5. 社会的格差、社会政策と社会問題</td> <td>12. 相互行為、社会学と社会福祉学の連携・協働</td> </tr> <tr> <td>6. 差別と偏見、災害と復興</td> <td>13. 総まとめ①</td> </tr> <tr> <td>7. 家族とジェンダー</td> <td>14. 総まとめ②</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 総まとめ③</td> </tr> </table>			1. 授業概要の説明、社会学の視点(社会学の意義と対象・社会学の歴史)	8. 健康	2. 社会システム、組織と集団	9. 労働	3. 人口、グローバル化、社会変動	10. 世代	4. 地域、環境	11. 自己と他者、社会化	5. 社会的格差、社会政策と社会問題	12. 相互行為、社会学と社会福祉学の連携・協働	6. 差別と偏見、災害と復興	13. 総まとめ①	7. 家族とジェンダー	14. 総まとめ②		15. 総まとめ③
1. 授業概要の説明、社会学の視点(社会学の意義と対象・社会学の歴史)	8. 健康																		
2. 社会システム、組織と集団	9. 労働																		
3. 人口、グローバル化、社会変動	10. 世代																		
4. 地域、環境	11. 自己と他者、社会化																		
5. 社会的格差、社会政策と社会問題	12. 相互行為、社会学と社会福祉学の連携・協働																		
6. 差別と偏見、災害と復興	13. 総まとめ①																		
7. 家族とジェンダー	14. 総まとめ②																		
	15. 総まとめ③																		
準備学習	教科書の該当箇所を事前に読み、アウトラインを把握すること																		
教科書・教材等	『最新・社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座3 社会学と社会システム』・その他、授業中に配布する資料																		
授業の形式 教育機器の活用	講義形式(双方向形式を含む)																		
成績評価の方法	定期試験 100%																		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	対人援助において、社会学の概念やその視点は非常に重要です。単に知識を暗記するのではなく、学んだことをもとに、多角的な視点からの考察を意識しながら、主体的に取り組んで下さい。																		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分	共通科目
授業科目名	障害者福祉	担 当 教 官 名	小出享一/山西紀律代 濱田恵/花島正晃/船曳美千子
対象学生	第1学年	履修学期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	障害者の権利、障害者総合支援法、バリアフリー、障害者と家族		
授業の概要 及び到達目標	<p>&lt;授業の概要&gt; 障害者福祉の歴史から制度の発展過程を学び、障害者とその家族の支援について幅広く学ぶ。ソーシャルワーカーとして適切な支援について総合的に学ぶ。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 1. 障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活と取り巻く生活環境について理解する。 2. 障害者福祉の歴史と障害者観の変遷、制度の発展過程について学ぶ。 3. 障害者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する 4. ソーシャルワーカーが障害者の生活課題に対してどのような関りを行うのかを理解する。</p> <p>&lt;講師紹介&gt; 小出享一 社会福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員、相談支援専門員等を取得。博士(社会学)。独立型社会福祉士事務所を開業、また特定指定相談支援事業所にて相談支援専門員として相談援助業務に従事している。</p> <p>山西紀律代 社会福祉士、精神保健福祉士を取得。修士(生活科学)。主に精神障害者を対象とした事業所において、ソーシャルワーク業務に従事していた。</p>		
講義計画・内容	1「障害概念と特性」 2「障害者の生活実態/障害者を取り巻く社会環境」 3「障害者福祉の理念」 4「障害者観/障害者処遇の変遷」 5「障害者の権利条約と障害者基本法」 6「障害者福祉制度の発展過程」 7「障害者総合支援法①」 8「障害者総合支援法②」 9「身体障害者福祉法/知的障害者福祉法」 10「精神保健福祉法」 11「発達障害者福祉法/児童福祉法」 12「障害者虐待防止法/障害者差別解消法」 13「バリアフリー法/障害者雇用促進法/障害者優先調達推進法」 14「障害者と家族等の支援」 15「まとめ」		
準備学習	テキストに事前に目を通し、授業に備える		
教科書・教材等	最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座⑧障害者福祉(中央法規出版) その他、授業中に配布する資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義形式		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	試験対策としての知識を得るためだけに講義に参加するのではなく、様々な生きづらさを抱える利用者の皆さんとどのように向き合っていくべきかについて、福祉実践の視点を意識しながら講義に臨んでください。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分(基専)	共通科目		
授業科目名	社会保障	担 当 教 官 名	関口洋明		
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	通年		
必修・選択の別	必修	授業回数	30回		
授業のキーワード	少子高齢化社会・持続可能な社会保障				
授業の概要 及び到達目標	<p>・我が国の社会保障制度の基礎知識を学ぶと共にその制度の成立の背景を学ぶ。諸外国の社会保障制度と比較をし、我が国の社会保障制度の抱える課題も検討する。</p> <p>・次の点を到達目標とする。</p> <p>・我が国の社会保障制度の全体像を理解し、年金保険・医療保険・労働保険・介護保険制度、社会扶助、社会福祉制度の具体的な仕組みに関する基礎知識を習得する。</p>				
講義計画・内容	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;">                     1.導入(これからの社会保障)                      2.厚生労働白書から人口問題を考える。                      3.人口ビジョン2100と人口問題                      4.社会保障の概念と範囲、社会保障の役割と意義                      5.社会保障の理念、社会保障の対象                      6.社会保障制度の展開                      7.社会保障の財政                      8.社会保障給付費・内訳・動向                      9.国民負担率、社会保障と経済                      10. 保険と扶助の考え方                      11. 社会保険と社会扶助の考え方                      12.社会保険と民間保険                      13.医療保険制度の概要                      14. 中間まとめ①                      15. 中間まとめ②                 </td> <td style="vertical-align: top;">                     16.介護保険制度の概要                      17.年金制度の概要①                      18.年金制度の概要②                      19.労災保険制度と雇用保険制度の概要①                      20.労災保険制度と雇用保険制度の概要②                      21.生活保護制度の概要                      22.社会手当制度の概要                      23.社会福祉制度の概要                      24.諸外国の社会保障①                      25.諸外国の社会保障②                      26.社会保障の国際比較                      27.社会保障の国際化                      28.ゲストスピーカー                      29. 総まとめ①                      30. 総まとめ②                 </td> </tr> </table>			1.導入(これからの社会保障) 2.厚生労働白書から人口問題を考える。 3.人口ビジョン2100と人口問題 4.社会保障の概念と範囲、社会保障の役割と意義 5.社会保障の理念、社会保障の対象 6.社会保障制度の展開 7.社会保障の財政 8.社会保障給付費・内訳・動向 9.国民負担率、社会保障と経済 10. 保険と扶助の考え方 11. 社会保険と社会扶助の考え方 12.社会保険と民間保険 13.医療保険制度の概要 14. 中間まとめ① 15. 中間まとめ②	16.介護保険制度の概要 17.年金制度の概要① 18.年金制度の概要② 19.労災保険制度と雇用保険制度の概要① 20.労災保険制度と雇用保険制度の概要② 21.生活保護制度の概要 22.社会手当制度の概要 23.社会福祉制度の概要 24.諸外国の社会保障① 25.諸外国の社会保障② 26.社会保障の国際比較 27.社会保障の国際化 28.ゲストスピーカー 29. 総まとめ① 30. 総まとめ②
1.導入(これからの社会保障) 2.厚生労働白書から人口問題を考える。 3.人口ビジョン2100と人口問題 4.社会保障の概念と範囲、社会保障の役割と意義 5.社会保障の理念、社会保障の対象 6.社会保障制度の展開 7.社会保障の財政 8.社会保障給付費・内訳・動向 9.国民負担率、社会保障と経済 10. 保険と扶助の考え方 11. 社会保険と社会扶助の考え方 12.社会保険と民間保険 13.医療保険制度の概要 14. 中間まとめ① 15. 中間まとめ②	16.介護保険制度の概要 17.年金制度の概要① 18.年金制度の概要② 19.労災保険制度と雇用保険制度の概要① 20.労災保険制度と雇用保険制度の概要② 21.生活保護制度の概要 22.社会手当制度の概要 23.社会福祉制度の概要 24.諸外国の社会保障① 25.諸外国の社会保障② 26.社会保障の国際比較 27.社会保障の国際化 28.ゲストスピーカー 29. 総まとめ① 30. 総まとめ②				
準備学習	自分自身の生活に密着している科目であることから時事や新聞などのニュースにて日常的に意識し、情報収集しておく。				
教科書・教材等	最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座⑦社会保障(中央法規出版)				
授業の形式 教育機器の活用	講義・視聴覚機器利用				
成績評価の方法	定期試験(中間・期末)100%				
担当教官から (履修に当たっての留意点)	社会保障は私たちの生活に密着している制度、施策であり、ソーシャルワーカーとしても必要な知識としての力量が求められます。国家試験に対応するための知識は最低限必要ですが、ソーシャルワーカーとして実践に役立つ事例も合わせて学んでいきたいと考えています。				

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分(基専)	共通科目
授業科目名	社会福祉調査の基礎	担 当 教 官 名	宮江 真矢
対象学生	第1学年	履 修 学 期	通年
必修・選択の別	必修	授 業 回 数	15回
授業のキーワード	データ収集・分析、量的調査、質的調査、評価		
授業の概要 及び到達目標	<p>&lt;授業の概要&gt; 社会福祉調査の歴史や目的、方法論や倫理といった社会福祉調査の意義について学び、量的調査と質的調査など、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的な事項を実例をもとに概説する。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 本授業ではこの社会福祉調査の基本的な知識の習得を目的とし、社会福祉調査から得られたデータの読み解きができるようになることを目標とする。また、調査者としての倫理と市民としての調査リテラシーを高めることの重要性を理解する。</p> <p>&lt;講師経歴&gt; 社会福祉士。医療ソーシャルワーカー(MSW)、スクールソーシャルワーカー(SSW)の経験を活かし、2018年10月より京都精華大学学生相談室キャンパスソーシャルワーカー(CSW)として勤務していた。ソーシャルワークを通して学生を取り巻く心理、福祉問題の解決を行っている。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1「社会福祉調査の意義と目的①」</li> <li>2「社会福祉調査の意義と目的②統計法」</li> <li>3「社会福祉調査における倫理と個人情報」</li> <li>4「社会福祉調査のデザイン①調査における考え方と論理」</li> <li>5「社会福祉調査のデザイン②調査の目的と対象」</li> <li>6「社会福祉調査のデザイン③データ収集・分析/プロセス」</li> <li>7「量的調査の方法①量的調査の概要」</li> <li>8「量的調査の方法②量的調査の種類と方法」</li> <li>9「量的調査の方法③質問紙の作成方法/集計と分析」</li> <li>10「質的調査の方法①概要と方法」</li> <li>11「質的調査の方法②記録の方法/分析方法」</li> <li>12「ソーシャルワークにおける評価の意義」</li> <li>13「ソーシャルワークにおける評価対象」</li> <li>14「ソーシャルワークにおける評価方法」</li> <li>15「まとめ」</li> </ol>		
準備学習	テキストに事前に目を通し、授業に備える		
教科書・教材等	最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座⑤社会福祉調査の基礎(中央法規出版) その他、授業中に配布する資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義形式		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	社会福祉調査は、社会的ニーズを把握し、その充足の過程において必要となる利用者理解やサービス評価に必要な客観的な「認識」を得る機能があります。それらを正しく吟味できる能力を身につけ、知識や実践のレベルを高めていきましょう。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分	共通科目
授業科目名	地域福祉と包括的支援体制	担 当 教 官 名	渡邊一真/濱田恵/花島正晃 船曳美千子/山西紀律代
対象学生	第1学年	履 修 学 期	通 年
必修・選択の別	必修	授業回数	30回
授業のキーワード	地域福祉、地域共生社会、地域ケアシステム、地域生活課題		
授業の概要 及び到達目標	<p>&lt;授業の概要&gt;社会的ニーズが増大し、これまで以上に、地域福祉への期待が高まっている。そのような中、ソーシャルワーカーとして、どの分野で活躍するにしても地域社会、地域住民との協働をもとにした地域福祉の考え方が大きな要素となる。本授業では、地域福祉の基本的な考え方から地域生活課題にソーシャルワーカーとしてどのように働き掛けるのか総合的に学ぶ。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解する。</li> <li>2. 地域福祉の対象となる住民の主体性について理解する。</li> <li>3. 地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。</li> <li>4. 包括的支援体制の考え方について理解し、多職種・多機関との連携について理解する。</li> <li>5. 地域生活課題におけるソーシャルワーカーの役割について理解する。</li> </ol> <p>&lt;教員の経歴(渡邊)&gt;2003年 社会福祉士取得 1995年 京都府社会福祉協議会入職 2019年 日本福祉教育・ボランティア学習学会 理事</p> <p>&lt;教員の経歴(濱田)&gt;社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・介護支援専門員・修士(生活科学) 福祉系大学卒業後、高齢者施設にて、介護職員として勤務後、2006年より地域包括支援センターにて13年相談員として勤務。同時に、大学の非常勤講師として社会福祉士養成のための実習指導・演習科目を担当した。</p>		
講義計画・内容	<p>【渡邊】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1「地域社会の概念と理論/地域社会の変化」</li> <li>2「多様化・複雑化した地域生活課題の現状とニーズ」</li> <li>3「地域福祉と社会的孤立」</li> <li>4「地域福祉ガバナンス」</li> <li>5「地域共生の実現に向けた多機関協働」</li> <li>①「他機関協働を促進するしくみ①」</li> <li>6「地域共生の実現に向けた多機関協働①」</li> <li>7「地域共生の実現に向けた多機関協働②」</li> <li>多職種連携」</li> <li>8「地域共生の実現に向けた多機関協働③」</li> <li>福祉以外の分野と協働」</li> <li>9「地域福祉の概念と理論」</li> <li>10「地域福祉の動向」</li> <li>11「地域福祉の推進主体/地域福祉の主体と形成」</li> <li>12「福祉計画の意義・目的と展開」</li> <li>13「市町村地域福祉計画・都道府県地域福祉計画の定義と機能」</li> <li>14「福祉計画の策定過程と方法/実施と評価」</li> <li>15「まとめ」</li> </ol>	<p>【濱田】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1「地域包括ケアシステム」</li> <li>2「生活困窮者自立支援の考え方①」</li> <li>3「生活困窮者自立支援の考え方②」</li> <li>4「包括的支援体制」</li> <li>5「地域共生社会の構築」</li> <li>6「地域共生社会の実現に向けた各種施策」</li> <li>7「地域福祉の歴史①」</li> <li>8「地域福祉の歴史②」</li> <li>9「地域を基盤としたソーシャルワークの方法①」</li> <li>10「地域を基盤としたソーシャルワークの方法②」</li> <li>11「災害支援①非常時や災害時における法制度」</li> <li>12「災害支援②総合的かつ包括的な支援」</li> <li>13「福祉行財政システム①国・都道府県・市町村の役割」</li> <li>14「福祉行財政システム②福祉行財政の組織及び専門職の役割/財源」</li> <li>15「まとめ」</li> </ol>	
準備学習	テキストに事前に目を通し、授業に備える		
教科書・教材等	最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座⑥地域福祉と包括的支援体制(中央法規出版) その他、授業中に配布する資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義形式		
成績評価の方法	定期試験(中間・期末) 100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	試験対策としての知識を得るためだけに講義に参加するのではなく、地域で暮らすとはどういうことか、住民としての目線・本人としての目線を意識して講義に挑んでください。		



## 2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分(基専)	共通科目
授業科目名	権利擁護を支える法制度	担 当 教 官 名	五百木 孝行
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	15コマ
授業のキーワード	権利擁護 成年後見制度 社会福祉基礎構造改革 自己決定 意思決定支援 利用促進計画		
授業の概要 及び到達目標	<p>社会福祉基礎構造改革により、「措置」から「契約」へのパラダイム転換を経て、福祉サービスを「購入」するために、質の良いサービスの供給や苦情解決、契約能力の確保など、従来とは異なるサービス利用の下支えが必要となった。そのための仕組みを理解することが、本講義の目的です。</p> <p>権利擁護を支える法制度における意思決定支援による自己決定権とエンパワメント。自己責任と公的責任つまりはサービス利用と公的介入などについて、ソーシャルワークの思想を背景に学習を進めていきます。</p> <p>ソーシャルワークの担い手として身につける必要のある成年後見制度、権利擁護制度。憲法、行政法、民法、消費者の法制度について学習を深め、権利擁護の担い手の役割などについて理解する。また現在、成年後見制度は、利用促進基本計画が実施されており、その現状についても学習し、理解することを目標とします。</p>		
講義計画・内容	<p>第1回:はじめに～ソーシャルワークと法のかかわり  第2回:ソーシャルワークにおける主要な法(1)～憲法の理解  第3回:ソーシャルワークにおける主要な法(2)～民法の理解(1)  第4回:ソーシャルワークにおける主要な法(3)～民法の理解(2)  第5回:ソーシャルワークにおける主要な法(4)～行政法の理解  第6回:成年後見制度(1)～後見  第7回:成年後見制度(2)～保佐・補助及び義務と責任等  第8回:成年後見制度(3)～任意後見・未成年後見  第9回:権利擁護にかかわる組織・団体(1)～家裁・法務局  第10回:権利擁護にかかわる組織・団体(2)～自治体・社協・児相など  第11回:権利擁護にかかわる専門職(1)(2)～社会福祉士・弁護士など  第12回:権利擁護の意義と支える仕組み  第13回:権利擁護活動と意思決定支援  第14回:今後の権利擁護を支える法制度  第15回:全体のまとめ</p>		
準備学習	<p>権利擁護を支える法制度を理解するうえで法学に関する知識は欠かせません。特に、憲法、行政法、民法などの主要な法の基礎的な理解を深めるために教科書の理解は大切です。また社会福祉基礎構造改革の内容について教科書等で事前学習をしていただくことも大切です。</p>		
教科書・教材等	<p>最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座⑨権利擁護を支える法制度(中央法規出版)  『社会福祉小六法』(最新版) ミネルヴァ書房</p>		
授業の形式 教育機器の活用	講義		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	<p>権利擁護を支える法制度を理解するうえで法学に関する知識は欠かせません。本講義では国家試験に対応するための法律や制度等の知識だけでなく、なるべく福祉現場で役に立つ実務経験の話などもしていきたいと考えています。実務現場をイメージして授業に積極的に取り組んでください。</p>		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分	共通科目
授業科目名	刑事司法と福祉	担 当 教 官 名	中川るみ/船曳美千子 濱田恵/山西紀律代
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	通 年
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	刑法、少年法、更生保護、医療保護制度、犯罪被害者支援		
授業の概要 及び到達目標	<p>&lt;授業の概要&gt; 刑事司法の動向・制度などを総合的に学び、刑事司法においてソーシャルワーカーがどのような役割を担う必要があるのかを総合的に学ぶ。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 1. 刑事司法の近年の動向と制度の仕組みを理解する。 2. 刑事司法における社会福祉士・精神保健福祉士の役割について理解する。 3. 刑事司法の制度に関わる関係機関等の役割について理解する。</p>		
講義計画・内容	1「刑事司法における近年の動向」 2「刑事司法を取り巻く社会環境/社会福祉士・精神保健福祉士の役割」 3「刑事司法① 刑法」 4「刑事司法② 刑事事件の手続きと処遇」 5「少年司法① 少年法」 6「少年司法② 少年事件の手続きと処遇」 7「更生保護① 制度の概要/生活環境の調整」 8「更生保護② 仮釈放等/保護観察」 9「更生保護③ 更生緊急保護/団体・専門職等の役割と連携」 10「医療保護制度① 制度の概要」 11「医療保護制度② 審判・処遇の流れ」 12「医療保護制度③ 関係機関・専門職の役割と連携」 13「犯罪被害者支援① 犯罪被害者の地位の変遷/犯罪被害者支援に対する法」 14「犯罪被害者支援② 犯罪被害者支援に関する制度/団体・専門職等の役割と連携」 15「まとめ」		
準備学習	テキストに事前に目を通し、授業に備える		
教科書・教材等	最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座⑩刑事司法と福祉(中央法規出版) その他、授業中に配布する資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義形式		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	社会福祉士養成科目の中では、法学系科目である。 法務省や行政職員の新たな新採用の領域であり、社会福祉士が求められている。 ニーズ把握に始まるソーシャルワークのアプローチが今後も期待され、多機関連携の理解と連携を求められる。		

## 2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分	共通科目
授業科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職	担 当 教 官 名	山西紀律代・濱田恵・花島正晃・船曳美千子
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	通 年
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	ソーシャルワーク、ソーシャルインクルージョン、倫理綱領		
授業の概要 及び到達目標	<p>&lt;授業の概要&gt;            ソーシャルワークの基盤となる考え方や形成過程、価値規範と倫理について学び、ソーシャルワーカーの在り方について理解する。</p> <p>&lt;到達目標&gt;            1. 社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。            2. ソーシャルワークの基盤となる考え方と形成過程について理解する。            3. ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。</p> <p>&lt;講師紹介&gt;            山西紀律代            社会福祉士、精神保健福祉士を取得。修士(生活科学)。主に精神障害者を対象とした事業所において、ソーシャルワーク業務に従事していた。</p>		
講義計画・内容	1「社会福祉士及び介護福祉士法」 2「精神保健福祉士法」 3「社会福祉士及び精神保健福祉士の専門性」 4「ソーシャルワークの定義」 5「ソーシャルワークの原理」 6「ソーシャルワークの理念① 当事者主権/権利擁護」 7「ソーシャルワークの理念② ソーシャルインクルージョン/ノーマライゼーション」 8「ソーシャルワークの形成過程①」 9「ソーシャルワークの形成過程②」 10「専門職倫理の概念」 11「倫理綱領① ソーシャルワーカーの倫理綱領」 12「倫理綱領② 社会福祉士の倫理綱領」 13「倫理綱領③ 精神保健福祉士の倫理綱領」 14「倫理的ジレンマ」 15「まとめ」		
準備学習	テキストに事前に目を通し、授業に備える		
教科書・教材等	最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座①「ソーシャルワークの基盤と専門職【共通・社会専門】(中央法規出版) その他、授業中に配布する資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義形式 グループワーク		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	社会福祉士および精神保健福祉士の法的な位置づけや、資格の専門性について学びます。また、国家試験に対応するための知識の習得だけではなく、実践現場においてクライアント一人ひとりに応じた支援ができるよう、ソーシャルワークの専門的な知識や技術、価値について理解を深めることを目的とします。		

## 2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分(基専)	共通科目
授業科目名	ソーシャルワークの理論と方法	担 当 教 官 名	米津達也
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	通 年
必修・選択の別	必修	授業回数	30コマ
授業のキーワード	人と環境の交互作用、ソーシャルワークのプロセス、実践モデルとアプローチ		
授業の概要 及び到達目標	<p>概要: ソーシャルワークにおける構造と機能を基礎的に学び、その上で、実践における展開過程の技術について学ぶ。長年、高齢福祉分野でケースワークと地域連携を実践し、現在も介護支援専門員としてケースワークやスーパービジョンに臨む教員が、基礎技術の解説と事例を通じた応用学習を展開。学生同士のグループディスカッションを通じて、現場で活かせる実践力と国家試験に必要な基礎知識を習得する。</p> <p>①ソーシャルワークのシステム構造と機能について学び、人の暮らしに関する理解を深める ②展開過程と実践モデル、アプローチを学び、国家試験問題をクリアできる ③事例を通じて実践理解を深め、それを他者と共有できる</p> <p>&lt;実務者経験&gt; 2006年 社会福祉士 取得 介護老人保健施設にて支援相談員業務 2012年 介護支援専門員 取得 居宅介護支援事業所にて管理者兼介護支援専門員業務 2013年 社会福祉科「相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱ」担当 2019年 主任介護支援専門員 取得</p>		
講義計画・内容	<p>1～2. ソーシャルワーカーが学ぶ理論、システム理論 3～4. 生態学理論、BPSモデル、マイクロ・メゾ・マクロモデル、目標と展開 5～6. ケース発見、インテーク 7～8. アセスメント、プランニング、支援の実施とモニタリング、終結と評価 9～10. 3つのモデル、心理社会的アプローチ 11～12. 機能的アプローチ、問題解決アプローチ 13～14. 課題中心アプローチ、行動変容アプローチ 15. 本科目のまとめ① 16. 認知アプローチ 17. 危機介入アプローチ 18. エンパワメントアプローチ 19～20. ナラティブアプローチ、解決志向アプローチ、その他のアプローチ 21～22. 面接の技術、記録の技術 23～24. ケアマネジメント、グループを活用した支援 25～26. コミュニティワーク、ソーシャルアドミニストレーション 27. ソーシャルアクション 28～29. スーパービジョン 30. 本科目のまとめ②</p>		
準備学習	講義前にテキストにおける対象単元を読み込み、単元目標を理解しておくこと		
教科書・教材等	最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座⑩ソーシャルワークの理論と方法【共通科目】(中央法規出版)		
授業の形式 教育機器の活用	指定教科書と配布資料による講義 視聴覚機器使用、グループディスカッションによる事例演習		
成績評価の方法	定期試験(中間・期末) 100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	本講義では、テキストに沿った基礎知識の取得を講義形式にて行います。これにより、国家試験問題に準じた知識の取得が可能になります。また、事例やテーマを通じたグループによる演習を行います。学んだこと、感じたこと、考えたことを他者と共有することで、知識を深く身に付け、実践に活かせる技術を学びます。特にグループ演習に関しては、主体的に参加する心構えを大切にしてください。		

## 2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分	共通科目
授業科目名	ソーシャルワーク演習	担 当 教 官 名	和泉亮/濱田恵/高橋裕将/ 花島正晃/船曳美千子/山西紀律代
対象学生	第1学年	履 修 学 期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	ソーシャルワーク、自己覚知、ソーシャルワークの展開過程 等		
授業の概要 及び到達目標	<p><b>【授業の内容】</b> 本講義では、ソーシャルワークの礎となる自己覚知からはじまり、個人、グループを通じた演習形式の学びを通じて、専門職としての基本的知識、役割、専門性について実践的に理解をしていきます。</p> <p><b>【到達目標】</b> 1.自己洞察、内省そして重要な他者を通じて自己理解を深める。 2.ソーシャルワークの価値・知識・技術の基本を理解するとともに、自身の考えを持ち、他者に表明できるようになる。 3.ソーシャルワークの展開について、実践的演習を通じて、実践をPDCAサイクルで評価して行けるようになる。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.全体授業概要(福祉とは、自己覚知とは)</li> <li>2.基本的コミュニケーション技術①自己の振り返り</li> <li>3.基本的コミュニケーション技術②他者理解</li> <li>4.基本的コミュニケーション技術③バーバル、ノンバーバル</li> <li>4.基本的コミュニケーション演習</li> <li>5.面接場面①構造的、非構造的</li> <li>6.面接場面②環境設定</li> <li>7.面接場面③相談援助の展開過程</li> <li>8.面接場面④記録</li> <li>9.面接場面演習①</li> <li>10.面接場面演習②</li> <li>11.グループを対象とした支援①展開過程</li> <li>12.グループを対象とした支援②演習</li> <li>13.事例演習①</li> <li>14.事例演習②</li> <li>15.本科目のまとめ</li> </ol>		
準備学習	事前学習のほかにも、SNS等も活用し福祉サービス利用者とその家族を取り巻く社会全体に意識を向け、多方面の情報収集を意識すること。		
教科書・教材等	講義形式の授業の他にも個人でワークをする時間や意見交換をする時間を設ける。		
授業の形式 教育機器の活用	レジュメ、資料、視聴覚教材等を適時提供		
成績評価の方法	各項目ごとの課題の内容/グループワーク等における貢献度で評価		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	本講義においては、講義を一方向的に聴く受動的な学びではなく、学生同士や学生と講師等、双方向かつ能動的なコミュニケーションを大切にしています。お互いが良い影響を与え合い、その場にいるもの同士が相互に経験を分かち合い、成長しあうことを目標としていますので、積極的に自身の考えを発信するよう努めてください。		

## 2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分	専門科目
授業科目名	福祉サービスの組織と経営	担当 教 官 名	花島正晃/濱田恵/山西紀律代
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	通 年
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	社会福祉法人 財務諸表 リーダー理論 等		
授業の概要 及び到達目標	<p>&lt;授業の概要&gt; テキストに沿った形で要点をまとめたレジュメを配布。適宜、理解度確認のために、確認小テストを実施。折に触れて現場の話を交え全体的理解を深めていく。</p> <p>&lt;到達目標&gt; ・ソーシャルワーク実践における社会資源である各種組織・団体について理解する。 ・各種組織・団体に係る法・制度・事業とその沿革について理解し、説明できる。 ・組織の運営と経営に関する基礎理論を理解し、説明できる。 ・組織および人材のマネジメント手法に関する理論とその実際について理解し、それらを深めていくことができる。</p> <p>&lt;教員経歴(花島)&gt; 社会福祉士・精神保健福祉士・認定心理士・修士(健康福祉学) 福祉実践現場においては、教育委員会における学校ソーシャルワークや市役所保健福祉センターにて生活保護ケースワークを経験。教育分野では、専門学校専任教員、大学・短期大学等にて非常勤講師を経験。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の全体の流れについて</li> <li>2. 社会福祉法人について①</li> <li>3. 社会福祉法人について②</li> <li>4. 特定非営利活動法人について</li> <li>5. その他の組織や団体について</li> <li>6. 組織に関する基礎理論について</li> <li>7. 経営に関する基礎理論について</li> <li>8. 集団力学について</li> <li>9. リーダーシップに関する理論について①</li> <li>10. リーダーシップに関する理論について②</li> <li>11. 福祉サービスの管理運営について①コンプライアンスとガバナンス</li> <li>12. 福祉サービスの管理運営について②サービス評価と情報管理</li> <li>13. 労働環境の整備について①組織マネジメント、人材マネジメント</li> <li>14. 労働環境の整備について②労働環境法令と各種取組について</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		
準備学習	「社会福祉法人」をキーワードにその成り立ちや歴史等について自身で調べてから講義に臨むこと		
教科書・教材等	「最新 社会福祉士養成講座①福祉サービスの組織と経営」(中央法規出版) その他、授業中に配布する資料		
授業の形式 教育機器の活用	レジュメと配布資料、小テストによる講義		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	近年、福祉サービス提供主体の多様化に伴い、サービス利用者のみならず、相談援助職であってもその理解が追いついていない現状が散見されます。サービス提供主体の軸である「社会福祉法人」は勿論、その他の提供主体への理解を深め、もって福祉実践を支える土台基礎部分を固めていきましょう。また、福祉はその多くを「人」が担うもの実践となります。その貴重な社会資源である人材を育て伸ばしていくマネジメント手法について学びを深めていきましょう。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分	専門科目
授業科目名	児童・家庭福祉	担 当 教 官 名	木村友香理/濱田恵/船曳美千子/ 花島正晃/山西紀律代
対象学生	第1学年	履 修 学 期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	児童の権利・児童虐待・少子化		
授業の概要 及び到達目標	<p>&lt;授業概要&gt;児童を取り巻く環境は刻一刻と変化している。児童福祉の歴史から現在の法制度まで幅広い知識を学び、社会福祉士として生活課題にどのように関わっていくかを総合的に学ぶ。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <p>①児童・家庭及び妊産婦の生活をそれを取り巻く社会環境について理解する。                  ②児童福祉の歴史と児童館の変遷や制度の発展過程について理解する。                  ③児童や家庭福祉に係る法制度について理解する。                  ④児童や家庭福祉領域における社会福祉士の役割について理解する。                  ⑤児童等の生活課題を踏まえて、適切な支援について理解する。</p> <p>&lt;教員経歴(木村)&gt;                  社会福祉士                  大学院ではソーシャルワーカーの「過去の語り」から見るストレスについて研究を行う。                  福祉実践現場においては、厚生労働省委託の自殺対策電話相談員や児童相談所にて児童虐待電話相談員を経験。教育分野では、スクールソーシャルワーカーを経験。その他に、専門学校、通信制高校サポート校、大学等にて非常勤講師を経験。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「児童・家庭の定義/児童の権利」</li> <li>2 「児童・家庭の生活実態/児童・家庭を取り巻く社会環境」</li> <li>3 「児童福祉の理念/児童観の変遷」</li> <li>4 「児童・家庭福祉制度の発展過程」</li> <li>5 「児童福祉法」</li> <li>6 「児童に関する法制度①児童虐待防止法/DV防止法」</li> <li>7 「児童に関する法制度②母子及び父子並びに寡婦福祉法/母子保健法」</li> <li>8 「児童に関する法制度③児童手当法等」</li> <li>9 「児童に関する法制度④少子化対策基本法等」</li> <li>10「児童・家庭に対する支援における関係機関・専門職の役割①国・都道府県・市町村の役割」</li> <li>11「児童・家庭に対する支援における関係機関・専門職の役割②児童相談所/その他の組織・団体の役割」</li> <li>12「児童・家庭に対する支援における関係機関・専門職の役割③関連する専門職の役割」</li> <li>13「児童・家庭に対する支援の実際①」</li> <li>14「児童・家庭に対する支援の実際②」</li> <li>15「まとめ」</li> </ol>		
準備学習	テキストに事前に目を通し、授業に備える		
教科書・教材等	最新 社会福祉士養成講座③ 児童・家庭福祉(中央法規出版) その他、授業中に配布する資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義形式		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	近年、児童福祉に関する領域が広がり、理解すべき内容が大幅に増加しています。すべてを詰め込もうとすると苦しくなってくるので、学習内容の要点やイメージを押さえていくような学習姿勢が必要となってきます。また、時事問題なども織り交ぜながら、周辺理解にも努めていきたいと考えます。なお、講義は全体の理解度に応じて順番を前後することや内容を深めるために配分変更を行うことがあります。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分	専門科目
授業科目名	高齢者福祉	担当教官名	濱田 恵/山西紀律代
対象学生	第1学年	履修学期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	介護保険制度、老人福祉法、高齢者虐待、8050問題、地域包括ケアシステム		
授業の概要 及び到達目標	<p>&lt;授業概要&gt;日本は超高齢社会となり、人々のニーズも多様化している。単に「高齢化が進んでいる」という問題だけでなく、家族関係・地域との関係の希薄化が進み、それに伴う課題が多くある。この科目では介護保険制度だけでなく、高齢者を取り巻く歴史、老人福祉法等の法律・制度等を幅広く学ぶ。また現場実践を聞くことで知識を具体化させる。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <p>①高齢者を取り巻く環境や歴史、諸制度を理解し、説明することができるようになる。</p> <p>②高齢者の課題を踏まえて、社会福祉士として適切な支援の在り方を理解する。</p> <p>教員の経歴(濱田):社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・介護支援専門員・修士(生活科学) 福祉系大学卒業後、高齢者施設にて、介護職員として勤務後、2006年より地域包括支援センターにて13年相談員として勤務。同時に、大学の非常勤講師として社会福祉士養成のための実習指導・演習科目を担当した。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1「高齢者の定義と特性」</li> <li>2「高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会環境」</li> <li>3「高齢者福祉の発展①」</li> <li>4「高齢者福祉の発展②」</li> <li>5「高齢者に対する法制度①介護保険法①」</li> <li>6「高齢者に対する法制度①介護保険法②」</li> <li>7「高齢者に対する法制度②老人福祉法/高齢者の医療の確保に関する法律」</li> <li>8「高齢者に対する法制度③高齢者虐待防止法/バリアフリー法」</li> <li>9「高齢者に対する法制度④高齢者住まい法・高齢者雇用安定法/育児・介護休業法」</li> <li>10「高齢者と家族等の支援における関係機関の役割①」</li> <li>11「高齢者と家族等の支援における関係機関の役割①」</li> <li>12「関連する専門職の役割」</li> <li>13「高齢者領域における社会福祉士の役割」</li> <li>14「高齢者と家族に対する支援の実際」</li> <li>15「まとめ」</li> </ol>		
準備学習	テキストの読み込み、各市町村で発行をしている介護保険のガイドブックを読み、介護保険の概要について学んでおく。		
教科書・教材等	最新 社会福祉士養成講座② 高齢者福祉 (中央法規出版) その他、授業中に配布する資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義の他、個人ワーク・グループワークを取り入れる		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	試験対策としての知識を得るためだけに講義に参加するのではなく、様々な生きづらさを抱える利用者の皆さんとどのように向き合っていくべきかについて、福祉実践の視点を意識しながら講義に臨んでください。		



2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分(基専)		専門科目	
授業科目名	貧困に対する支援	担当教官名		北尾勝美	
対象学生	第1学年	履修学期		通年	
必修・選択の別	必修	授業回数		15回	
授業のキーワード	貧困 生活保護 低所得者 生活困窮者				
授業の概要 及び到達目標	<p>貧困や公的扶助の概念を踏まえ、貧困状態にある人の生活実態とこれを取り巻く社会環境について理解する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 貧困の歴史と貧困感の変遷について理解する。</li> <li>2. 貧困に係る法制度と支援の仕組みについて理解する。</li> <li>3. 貧困による生活課題を踏まえ、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。</li> </ol> <p>【実務者経験】</p> <p>1996年～2011年 京都市福祉事務所でケースワーカーとして勤務                  2012年～現在 社会福祉法人健光園に勤務                  2018年～現在 京都医健専門学校で非常勤講師として勤務</p>				
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公的扶助の概念</li> <li>2. 貧困の概念と貧困状態にある人の生活実態等</li> <li>3. 貧困の歴史</li> <li>4. 生活保護制度①(生活保護法の目的と原理、原則)</li> <li>5. 生活保護制度②(保護の種類と内容、方法)</li> <li>6. 生活保護制度③(保護施設、被保護者の権利と義務、不正・不適正受給対策、不服申し立てと訴訟、生活保護の財源、予算)</li> <li>7. 生活保護制度④(最低生活保障水準と生活保護基準)</li> <li>8. 生活保護制度⑤(生活保護の申請と要否判定)</li> <li>9. 生活保護の動向</li> <li>10. 低所得者に対する法制度①(生活困窮者自立支援制度、低所得者対策)</li> <li>11. 低所得者に対する法制度②(生活福祉金貸付制度、ホームレス対策)</li> <li>12. 貧困に対する支援における関係機関と専門職の役割</li> <li>13. 貧困に対する支援の実際①</li> <li>14. 貧困に対する支援の実際②</li> <li>15. 本科目のまとめ</li> </ol>				
準備学習	教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと(毎授業終了時に次回の内容と該当ページ等を知らせる)。教科書及び授業配布プリントに基づき、毎回の授業内容について予復習すること。必要に応じて、自筆ノートに要点をまとめる作業を行うこと。				
教科書・教材等	最新・社会福祉士養成講座4 貧困に対する支援				
授業の形式 教育機器の活用	指定教科書と配布資料による講義形式、個人ワーク、グループワーク				
成績評価の方法	定期試験 100%				
担当教官から (履修に当たっての留意点)	近年、経済停滞・雇用環境の変容を背景に、貧困・低所得者層の増加傾向がみられる。そのため、生活保護法の改正や低所得者対策の法整備が行われてきた。本講を学ぶことで、貧困に対する支援が社会保障・社会福祉の基礎をなし、また市民社会において必要不可欠な領域としてより機能していくために、どのような手立てを講じたらよいかを考えていきたい。				

## 2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分	専門科目
授業科目名	保健医療と福祉	担 当 教 官 名	井上基/大矢昌弘/森田倫子/平山司/武藤章 濱田恵/山西紀律代
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	通 年
必修・選択の別	必修	授 業 回 数	15回
授業のキーワード	医療保険制度、医療施設、医療ソーシャルワーカー		
授業の概要 及び到達目標	<p>&lt;授業概要&gt;保健医療サービスの基本的な構造と今日的な変化を踏まえて、そこにおける社会福祉士の役割と支援の在り方について理解することを目的とする。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <p>①ソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向を理解する。</p> <p>②保健医療に係る政策、制度、サービスについて理解する。</p> <p>③保健医療領域における社会福祉士の役割と、連携や協働について理解する。</p> <p>④保健医療の課題を持つ人に対する、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。</p> <p>&lt;教員の経歴&gt;</p> <p>武藤:社会福祉士・介護支援専門員</p> <p>井上:社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員</p> <p>平山:社会福祉士・精神保健福祉士</p> <p>森田:社会福祉士・精神保健福祉士</p> <p>大矢:社会福祉士・精神保健福祉士</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1「保健医療の動向」</li> <li>2「医療保険制度の概要①」</li> <li>3「医療保険制度の概要②」</li> <li>4「診療報酬制度の概要」</li> <li>5「医療施設の概要」</li> <li>6「保健医療対策の概要①保健所の役割/地域医療の指針」</li> <li>7「保健医療対策の概要②5疾病・5事業」</li> <li>8「保健医療に係る倫理①自己決定権の尊重」</li> <li>9「保健医療に係る倫理②保健医療に係る倫理/倫理的課題」</li> <li>10「保健医療領域における専門職」</li> <li>11「保健医療領域における連携・協働」</li> <li>12「保健医療領域における社会福祉士の役割」</li> <li>13「保健医療領域における支援の実際①」</li> <li>14「保健医療領域における支援の実際②」</li> <li>15「まとめ」</li> </ol>		
準備学習	テキストに事前に目を通し、授業に備える		
教科書・教材等	最新 社会福祉士養成講座⑤保健医療と福祉(中央法規出版) その他、授業中に配布する資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義形式		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	単語を覚えるのみではイメージがし難いため、講師の臨床経験を可能な限り授業に取り入れていきますので、自身の身近なことと関連付けで覚えていく様、心掛けてください。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分	専門科目
授業科目名	ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)	担 当 教 官 名	濱田恵/山西紀律代
対 象 学 生	第1学年	履 修 学 期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	15回
授業のキーワード	マイクロ・メゾ・マクロ、チームアプローチ、ジェネラリスト		
授業の概要 及び到達目標	<p>&lt;授業の概要&gt;社会福祉士が求められる役割について理解し、マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について幅広い知識を身につける。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉士の職域と求められる役割について理解する。</li> <li>2. ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する。</li> <li>3. マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解する。</li> </ol> <p>・総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解する。</p> <p>教員の経歴(濱田):社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・介護支援専門員・修士(生活科学) 福祉系大学卒業後、高齢者施設にて、介護職員として勤務後、2006年より地域包括支援センターにて13年相談員として勤務。同時に、大学の非常勤講師として社会福祉士養成のための実習指導・演習科目を担当した。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1「ソーシャルワーク専門職の概念と範囲」</li> <li>2「社会福祉士の職域①」</li> <li>3「社会福祉士の職域②」</li> <li>4「福祉行政等における専門職」</li> <li>5「民間の施設・組織における専門職」</li> <li>6「諸外国の動向」</li> <li>7「マイクロ・メゾ・マクロレベルの対象①」</li> <li>8「マイクロ・メゾ・マクロレベルの対象②」</li> <li>9「マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク①」</li> <li>10「マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク②」</li> <li>11「多機関による包括支援体制」</li> <li>12「社会資源との協働体制/ソーシャルサポートネットワーキング」</li> <li>13「多職種連携及びチームアプローチの意義」</li> <li>14「機関・団体間の合意形成と相互関係/利用者・家族の参画」</li> <li>15「まとめ」</li> </ol>		
準備学習	テキストに事前に目を通し、授業に備える		
教科書・教材等	最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座⑩ソーシャルワークの基盤と専門職【共通・社会専門】(中央法規出版) その他、授業中に配布する資料		
授業の形式 教育機器の活用	講義形式 グループワーク		
成績評価の方法	定期試験 100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	試験対策としての知識を得るためだけに講義に参加するのではなく、様々な生きづらさを抱える利用者の皆さんとどのように向き合っていくべきかについて、福祉実践の視点を意識しながら講義に臨んでください。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分(基専)	専門科目
授業科目名	ソーシャルワークの理論と方法(専門)	担 当 教 官 名	米津達也
対象学生	第1学年	履 修 学 期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	30コマ
授業のキーワード	総合的・包括的支援、家族支援、社会環境へのアプローチ		
授業の概要 及び到達目標	<p>概要: ソーシャルワークにおける構造と機能を基礎的に学び、その上で、実践における展開過程の技術について学ぶ。長年、高齢福祉分野でケースワークと地域連携を実践し、現在も介護支援専門員としてケースワークやスーパービジョンに臨む教員が、基礎技術の解説と事例を通じた応用学習を展開。学生同士のグループディスカッションを通じて、現場で活かせる実践力と国家試験に必要な基礎知識を習得する。</p> <p>①ソーシャルワークのシステム構造と機能について学び、人の暮らしに関する理解を深める ②展開過程と実践モデル、アプローチを学び、国家試験問題をクリアできる ③事例を通じて実践理解を深め、それを他者と共有できる</p> <p>&lt;実務者経験&gt; 2006年 社会福祉士 取得 介護老人保健施設にて支援相談員業務 2012年 介護支援専門員 取得 居宅介護支援事業所にて管理者兼介護支援専門員業務 2013年 社会福祉科「相談援助の理論と方法Ⅰ・Ⅱ」担当 2019年 主任介護支援専門員 取得</p>		
講義計画・内容	<p>1～2. 総合的・包括的支援(人と環境の相互関係を視る視点) 3. 総合的・包括的支援(クライアント理解の視点、エコロジカル・アプローチ演習) 4. 総合的・包括的支援(クライアント理解の視点、時間と変化と解決) 5～6. 家族支援(ジェノグラムから考える家族システム) 7～8. ゲストスピーカー① 家族支援 9～10. 援助関係形成 11～12. ネットワーキングとコーディネーション 13～14. 災害支援 15. 本科目のまとめ① 16. 地域支援の実際 17～18. 地域支援と災害時支援の実際 ゲストスピーカー② 19. 社会資源の開発 問題解決アプローチ(演習) 20. 社会資源の開発 課題解決アプローチ(演習) 21. カンファレンス 22. 事例研究、事例分析 23. ソーシャルワークに関する技法 ネゴシエーション 24. 交渉の技術 25. ファシリテーション 26. プレゼンテーション 27～28. コンフリクト、レゾリューション ゲストスピーカー③ 29. ソーシャル・マーケティング 30. 本科目のまとめ②</p>		
準備学習	講義前にテキストにおける対象単元を読み込み、単元目標を理解しておくこと		
教科書・教材等	ソーシャルワークの理論と方法(社会専門)中央法規		
授業の形式 教育機器の活用	指定教科書と配布資料による講義 視聴覚機器使用、グループディスカッションによる事例演習		
成績評価の方法	定期試験(中間・期末)100%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	本講義では、テキストに沿った基礎知識の取得を講義形式にて行います。これにより、国家試験問題に準じた知識の取得が可能になります。また、事例やテーマを通じたグループによる演習を行います。学んだこと、感じたこと、考えたことを他者と共有することで、知識を深く身に付け、実践に活かせる技術を学びます。特にグループ演習に関しては、主体的に参加する心構えを大切にしてください。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分	専門科目
授業科目名	ソーシャルワーク演習(専門)	担当 教 官 名	高橋裕将/濱田恵/宮江真矢/専任教員
対象学生	第1学年	履 修 学 期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	60回
授業のキーワード	ソーシャルワーク、価値・倫理・知識・技術、マイクロ・メゾ・マクロ、スーパービジョン		
授業の概要 及び到達目標	<p>&lt;授業概要&gt;ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、支援が必要な人たちに対して、どのように支援を展開していくか、実習での学びも含めながら、実践的に理解していく。</p> <p>&lt;到達目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ソーシャルワーク実践に必要な知識と技術の統合を行う。</li> <li>2. ソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を養う。</li> <li>3. 支援を必要とする人たちへの総合的かつ包括的な支援について理解する。</li> <li>4. 地域アセスメントや評価等の仕組みを実践的に理解する。</li> <li>5. ソーシャルワークの対象と展開過程等について実践的に理解する。</li> <li>6. 事例検討・事例研究を行い、その意義や方法を具体的に理解する。</li> <li>7. スーパービジョンについて体験的に理解する。</li> </ol> <p>&lt;教員経歴(高橋)&gt; 社会福祉士・介護福祉士、社会福祉士演習・実習分野講習修了 社会福祉士養成校卒業後、医療・高齢者領域にて勤務、様々な経験を積む</p> <p>&lt;教員経歴(濱田)&gt;社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・介護支援専門員・修士(生活科学) 福祉系大学卒業後、高齢者施設にて、介護職員として勤務後、2006年より地域包括支援センターにて13年相談員として勤務。同時に、大学の非常勤講師として社会福祉士養成のための実習指導・演習科目を担当した。</p>		
講義計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.2「ソーシャルワークの展開過程①」</li> <li>3「ソーシャルワークの展開過程②」</li> <li>4「ソーシャルワークの展開過程③」</li> <li>5「アウトリーチ基本的理解と方法」</li> <li>6「チームアプローチ基本的理解と方法」</li> <li>7「ネットワーキング基本的理解と方法」</li> <li>8「ソーシャルアクション基本的理解と方法」</li> <li>9「その他の技術基本的理解とその方法」</li> <li>10～12「虐待ケースの支援」</li> <li>13～15「ひきこもりの人への支援」</li> <li>16～18「認知症の人への支援」</li> <li>19～21「終末期ケアの支援」</li> <li>22～24「災害時の支援(平時)」</li> <li>25～27「災害時の支援(災害時)」</li> <li>28～30「高齢の親と障害の子に対する支援」</li> <li>31「地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握①」</li> <li>32「地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握②」</li> <li>33「地域アセスメントの理解とその方法①」</li> <li>34「地域アセスメントの理解とその方法②」</li> <li>35「地域課題の発見～対応①」</li> <li>36「地域課題の発見～対応②」</li> <li>37「地域課題の発見～対応③」</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>38「地域福祉の計画①基本的理解」</li> <li>39「地域福祉の計画②プランニング①」</li> <li>40「地域福祉の計画③プランニング②」</li> <li>41「地域の組織化①」</li> <li>42「地域の組織化②」</li> <li>43「社会資源の発見と活用」</li> <li>44「社会資源の調整」</li> <li>45「社会資源の開発」</li> <li>46「サービスの評価①」</li> <li>47「サービスの評価②」</li> <li>48「事例研究①」</li> <li>49「事例研究②」</li> <li>50「事例研究③」</li> <li>51「事例研究④」</li> <li>52「事例研究⑤」</li> <li>53「事例検討①」</li> <li>54「事例検討②」</li> <li>55「事例検討③」</li> <li>56「事例検討④」</li> <li>57「事例検討⑤」</li> <li>58「スーパービジョン①」</li> <li>59「スーパービジョン②」</li> <li>60「まとめ～これからのソーシャルワーカーの在り方～」</li> </ol>	
準備学習	ソーシャルワークに関する基本的な知識と技術・方法について、他の科目のテキストで事前学習を行っておくこと。		
教科書・教材等	随時、資料を配布します。		
授業の形式 教育機器の活用	講義・個人ワーク・グループワーク		
成績評価の方法	各項目ごとの課題の内容/グループワーク等における貢献度で評価		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	本授業では様々な事例を通し、ソーシャルワーカーとしてどのように関わるか具体的に考えていきます。想像力を働かせながら、グループワークなどに参加をしてください。積極的な参加を求めます。		

2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分	専門科目
授業科目名	ソーシャルワーク実習指導	担 当 教 官 名	高橋裕将/濱田恵/ 宮江真矢/専任教員
対象学生	第1学年	履 修 学 期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	45回
授業のキーワード	ソーシャルワーク、価値・倫理・知識・技術、多職種連携		
授業の概要 及び到達目標	<p>&lt;授業概要&gt; 当事者に寄り添うとはどういうことか、専門職としてどのような価値と倫理、知識・技術が必要なのか、なぜ社会福祉士が必要とされているのか等を個人ワーク・グループワーク等を通じて学ぶ。 また現場実習での体験をもってそれらの意味について考え、自身の振り返り・課題の整理を行う。</p> <p>&lt;到達目標&gt; 社会福祉士を目指すにあたって、必須である「ソーシャルワーク実習」に向けての事前学習・実習中の振り返り・事後学習を体系的に行い、最終的には自身のソーシャルワーカー像を思い描くことができる。</p> <p>教員経歴(濱田): 社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・介護支援専門員・修士(生活科学) 福祉系大学卒業後、高齢者施設にて、介護職員として勤務後、2006年より地域包括支援センターにて13年相談員として勤務。同時に、大学の非常勤講師として社会福祉士養成のための実習指導・演習科目を担当した。</p> <p>&lt;教員経歴(高橋)&gt; 社会福祉士・介護福祉士、社会福祉士演習・実習分野講習修了 社会福祉士養成校卒業後、医療・高齢者領域にて勤務、様々な経験を積む</p>		
講義計画・内容	<p>1「実習の意義、自分のソーシャルワーカー像」 2「実習先領域の種類についての理解」 3「多様な施設・事業所の理解①」 4「多様な施設・事業所の理解②」 5「実習先についての事前学習①」 6「実習先についての事前学習②」 7「実習計画書の作成について①」 8「実習計画書の作成について②」 9「実習における個人情報保護」 10「記録の書き方①」 11「記録の書き方②」 12「記録の書き方③」 13「実習の心構え①(マナー)」 14「実習の心構え②」 15「帰校日指導:前半実習の振り返り」 16「前半実習評価と課題の整理①」 17「前半実習評価と課題の整理②」 18「実習先についての事前学習③」 19「実習先についての事前学習④」</p>	<p>20「前半実習の課題を踏まえた実習計画書の作成①」 21「前半実習の課題を踏まえた実習計画書の作成②」 22,23「後半実習1に向けての準備」 24,25,26「帰校日指導:後半実習1振り返り①」 27,28,29「帰校日指導:後半実習1振り返り②」 30,31「中間学習①(グループ学習)」 32,33「中間学習②(グループ学習)」 34,35「後半実習2に向けての準備」 36,37「帰校日指導:後半実習2振り返り①」 38,39「帰校日指導:後半実習2振り返り②」 40「後半実習評価と課題の整理」 41,42 実習まとめ① 43,44 実習まとめ②「実習報告会」 45 実習まとめ③「自分のソーシャルワーカー像」</p>	
準備学習	各自の実習先について、調べてもらうことがあります。		
教科書・教材等	随時、資料を配布します。		
授業の形式 教育機器の活用	講義・個人ワーク・グループワーク		
成績評価の方法	各項目ごとの課題の提出 50%・まとめレポートの提出 50%		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	実習をするにあたっての心構えや事前学習・事後学習を中心に講義を行います。各自が体験したことを発表する機会も多くありますので、積極的な参加を求めます。実習は1人ではありません。受講者全員で、良い実習ができるように、協力をしていければと思います。		

## 2024年度 京都医健専門学校 授業計画(シラバス)

学 科	社会福祉科	授業科目区分	専門科目
授業科目名	ソーシャルワーク実習	担当教官名	高橋裕将/濱田恵/宮江真矢/専任教員
対象学生	第1学年	履修学期	通年
必修・選択の別	必修	授業回数	240時間(前半60時間/後半180時間)
授業のキーワード	ソーシャルワーク、価値・倫理・知識・技術、多職種連携		
授業の概要 及び到達目標	<p>・社会福祉士として必要な知識・技術・価値を実習施設(指導者・職員・利用者)から学び、理論と実践を結び付け、実践力をつける。</p> <p>・支援を必要とする人や地域の状況を理解し、ニーズについて把握する。</p> <p>・ニーズに対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成・実施・評価を行う。</p> <p>・施設・機関等が地域社会で果たす役割について理解する。</p> <p>・領域にとらわれることなく、包括的な支援における多職種や地域住民等との連携の在り方を理解する。</p> <p>&lt;教員経歴(濱田)&gt;社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・介護支援専門員・修士(生活科学) 福祉系大学卒業後、高齢者施設にて、介護職員として勤務後、2006年より地域包括支援センターにて13年相談員として勤務。同時に、大学の非常勤講師として社会福祉士養成のための実習指導・演習科目を担当した。</p> <p>&lt;教員経歴(高橋)&gt; 社会福祉士・介護福祉士、社会福祉士演習・実習分野講習修了 社会福祉士養成校卒業後、医療・高齢者領域にて勤務、様々な経験を積む</p>		
講義計画・内容	<p>①施設・事業所の機能・役割の理解</p> <p>②施設・事業所と地域の関係性の理解</p> <p>③利用者やその関係者(家族・親族、友人等)、施設・事業者・機関・団体、地域住民やボランティアとのコミュニケーション、関係性構築の理解</p> <p>④利用者や地域とのかかわりを通じて、生活課題(ニーズ)の把握、支援計画の作成と実施及び評価の方法の理解</p> <p>⑤多職種の役割理解、多職種連携・チームアプローチの理解</p> <p>⑥社会資源の活用・調整・開発の理解</p> <p>⑦施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際の理解</p> <p>⑧社会福祉士の職業倫理・役割の理解</p> <p>⑨ソーシャルワークの技術の実践的理解(アウトリーチ・ネットワーキング・コーディネート・ファシリテーション・ネゴシエーション・プレゼンテーション・ソーシャルアクション)</p>		
準備学習	各自の実習先について、調べてもらうことがあります。		
教科書・教材等	自分の実習施設・事業所について、各自調べる。		
授業の形式 教育機器の活用	現場実習		
成績評価の方法	実習日誌の提出及び、実習先からの評価を元に、総合的に評価する。		
担当教官から (履修に当たっての留意点)	実習は、専門職になるための大事なステップです。お一人お一人との出会い、学びを大切に、積極的に質問など行ってください。		